

川手文治郎(赤沢文治・金光大神) 維新前夜に{金光教}を開き、迫害にもめげず、<西南戦争>以降に大発展。

かわでぶんじろう

黒住教・・・1814 = 備中(岡山県)浅口郡占見村で、貧農の次男に生れ、

水野忠成老中1818 = 4歳 :

シノブ 出来日・1823 = 9歳 :

異国船打払令1825 = 11歳 : 隣の大谷村の貧しく暗い過去を持つ農業川手家の養子となり、

・・・1826 = 12歳 : 庄屋のもとで手習いして読み書きを覚え、

\_\_金神信仰のさかんな土地で、人間をおびやかす金神のたたり恐怖を抱いて育つ。

富嶽三十六景1831 = 17歳 : 養母が実子(義弟)を出産、

鼠小僧磔・・・1832 = 18歳 :

暗い過去を逃れようとする養父から赤沢姓に替えるように頼まれるが、

・・・1836 = 22歳 : 義弟が夭折し、病んで義父が死去、家を継いで結婚するも、不幸が続く、仕事に励んで、

大塩平八郎乱1837 = 23歳 : 金神の祟りを畏れて方角日柄等を慎重に選んで、風呂場と便所を建築、

天保改革始・1841 = 27歳 :

離れ屋もつくり、

阿部正弘首座1845 = 31歳 :

国定忠治磔・1850 = 36歳 : 母屋を建築するに至るが、この間、長男・長女・次男が相次いで夭折、牛2頭も死んで、

尊徳報徳論・1851 = 37歳 : この年までに、7つの墓を作ることになり、

\_\_この不幸を金神七殺のたたりと感じ、以前にも増し金神を篤く信仰するも、

ペリー来航・1853 = 39歳 :

安政大地震・1855 = 41歳 : 致死を免れぬ喉の重病に罹ってしまうが、奇蹟的に九死に一生を得、金神に救われたと実感し、

五ヶ国条約・1858 = 44歳 : \*神の声を聞くようになる。神秘的体験をくりかえすうちに、金神は人間を苦しめる神ではなく、幸福と救いを与える守り神であると自覚するに至る。

安政の大獄・1859 = 45歳 : 立教神伝をうけ、農業をやめ自宅広前(神殿)で、祭神天地金乃神の救いを説き始め、布教に専念。

桜田門外変・1860 = 46歳 :

かつての農民生活の体験から得た農業指導をはじめとして、民衆の現実生活に即した布教を行ない、信者の増加をみた。

明治維新・・・1868 = 54歳 : \*ついに"生神金光大明神"を名乗るに至り、

\_\_官憲や山伏からの弾圧・迫害にもめげず、

明治6年政変 1873 = 59歳 : 「天地書附」を作成、

佐賀の乱・・・1874 = 60歳 : 「金光大神覚」の執筆にとりかかる。

西南戦争・・・1877 = 63歳 : この頃から\*大阪・京都方面に教線がめざましく伸び、

明治14年政変1881 = 67歳 :

\*西日本一帯に広まるなか、

岩倉具視没・1883 = 69歳 : 没した。